

記事内容

- ☆ 2012 春季生活闘争・闘争開始宣言
- ☆ 2012 春季生活闘争ミニマム運動
- ☆ パワーアップセミナー開催
- ☆ 災害ボランティア救援隊「雪かたしボランティア」
- ☆ 第1回地協議長・事務局長会議 / ネット 21 熊谷オープン
- ☆ ピークカットアクション 21 ～冬の陣～
- ☆ 3.8 国際女性デー / もうすぐ選挙 / 3月の行動日程
- ☆ あけぼのビル

2012春季生活闘争開始宣言

～すべての労働者に配分を求め、 労働条件の復元・格差是正を！～

連合埼玉は、すべての労働者の格差是正、処遇改善による底上げに向け、2月14日（火）大宮駅東口にて、冷たい雨が降りしきる中、2012春季生活闘争開始宣言を行った。

主催者代表として、小林会長より「日本経済は、震災、欧州危機、タイの洪水や円高の影響の中で、先行き不透明感が強まっている。デフレからの脱却ができない中で、格差社会は深刻化しており、働いても生活できないワーキングプアと呼ばれる年収200万円以下の方が1,000万人を超えている。賃金の低下に歯止めをかけて格差の是正をはからなければいけない。すべての労働者の処遇改善に向けて、取り巻く環境が昨年以上に厳しい中で、すべての労働者のために1%を目安に配分を求め、労働条件の復元・格差是正をはかり、連合がかかげる、『働くことを軸とする安心社会の実現』につなげたい。みなさんのご支援をお願いしたい」とのあいさつがされた。

その後、松井副会長より「労働条件交渉と政策・制度の実現を両輪にすべての労働者の雇用と生活の安定を実現しよう！」をスローガンに、職場・地域から闘いを巻き起こし、未組織、パート労働者を含む、すべての働く仲間たちに闘いの輪を広げ、労働者一人ひとりの要求へ、行動へと結集していこう」と力強く開始宣言が行なわれ、佐藤事務局長より、現在の春季生活闘争を取り巻く情勢を訴え終了した。



主催者を代表し挨拶をする小林会長

春闘状況を報告する
佐藤事務局長

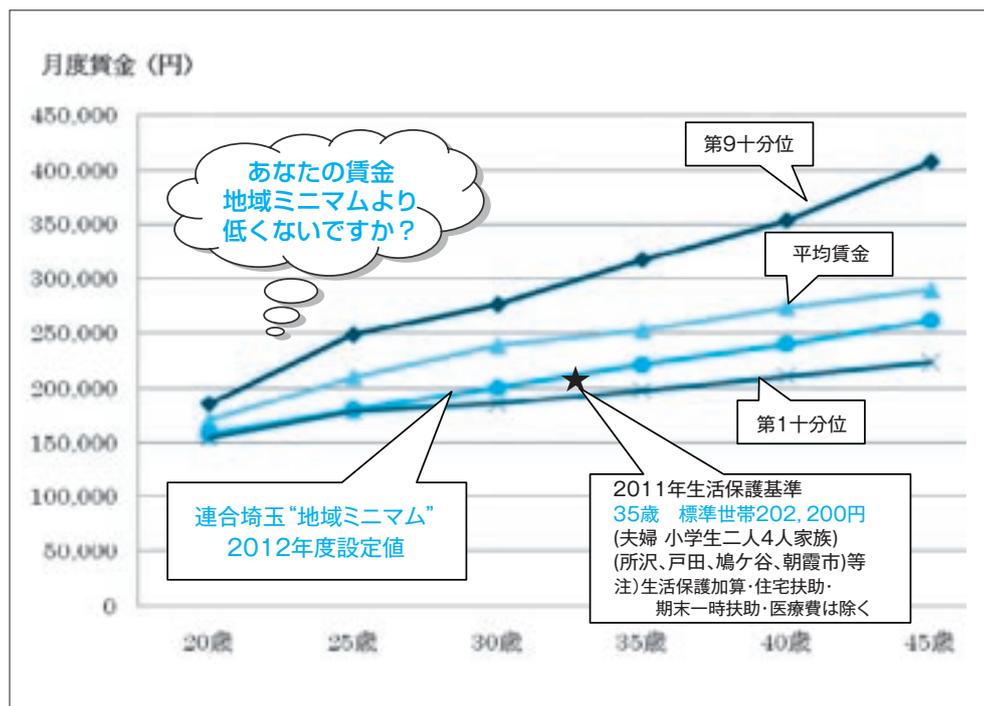
春闘開始宣言をする松井副会長

連合埼玉では交渉の山場である、3月7日（大宮駅東口）と4月5日（熊谷駅北口）、6日（越谷駅南口）、11日（川越駅東口デッキ）、12日（大宮駅東口）の18:00より、12地域協議会と連携した駅頭アピール行動を行います。今回のアピール行動については各構成組織の交渉状況と妥結状況を含めアピール行動を行い、中小・地場組合と未組織労働者への交渉支援となるよう、世論喚起に向け行動を行っていきます。

35歳 22万2千円以下の賃金をなくそう!

埼玉県で働く全ての勤労者の皆さんへ地域ミニマム運動推進中

連合埼玉では、県内に働く、中小労働組合(組合員数300名以下)2,793名の個別賃金調査を実施しその基礎データを基に「最低賃金(地域ミニマム)」を設定しました。中小企業労働者の賃金格差を是正するため「〇〇円以下の賃金をなくす」ことをめざした運動を推進中です。



グラフの説明と 年齢別最低賃金の考え方

- ◆グラフは連合埼玉に加盟する22の中小労働組合(2,793人)の2011年度賃金データを基本に年齢別のポイント賃金を表したものです。
- ◆連合埼玉ではこの調査結果から、基軸となる6つの年齢ポイント(20歳、25歳、30歳、35歳、40歳、45歳)に最低(地域ミニマム)賃金を設定しました。
- ◆ミニマム賃金額の設定にあたっては、各年齢における第1十分位に該当する賃金を、2011年度ミニマム賃金額と比較して検討しました。
- ◆連合埼玉の「地域ミニマム」運動として、生活保護基準「1級地-2(所沢・戸田など)」の基準額を上回る金額を設定しました。
- ※第1十分位 賃金分布の中で下から10%
- ※第9十分位 賃金分布の中で下から90%

2012年度年齢別最低賃金基準 (ミニマム賃金)

(設定金額より低い賃金をなくしましょう)

年齢	設定金額
20歳の人で	162,000円
25歳 //	179,000円
30歳 //	200,000円
35歳 //	222,000円
40歳 //	240,000円
45歳 //	261,500円

最低賃金は法律で定めています。(右表参照)ミニマム賃金は年齢別基準の目標値として提示しています。

- 《注意》
- ①この賃金は、男女同一です。
 - ②年齢は今年の4月1日現在の満年齢です。
 - ③設定額は、いずれも今年の4月分給与からです。
 - ④この金額は、時間外手当・休日出勤・交替手当・通勤手当を除き、毎月決まって支払われる定時間内の賃金です。

法律で定めている最低賃金は、以下の金額です。パート、アルバイトをされている方は、この金額以上の契約が義務づけられています。

埼玉県最低賃金

(発効日/平成23年10月1日~)

時間額 759円

特定(産業別)最低賃金

(発効日/平成23年12月8日~)

産業名	時間額
非鉄金属製造業	824円
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業	828円
輸送用機械器具製造業	837円
光学機械器具・レンズ、時計・同部分品製造業	836円
各種商品小売業	796円
自動車小売業	837円

2012春季生活闘争

パワーアップセミナー開催



労働政策委員会 松井健委員長



講師：j.union (株) 大川守氏

2月4日(土)、2月12日(日)の両日、春闘方針でも確認された、中小・地場組合の交渉支援として「2012春季生活闘争パワーアップセミナー」を総勢34名の参加のもとで開催した。

開催に先立ち、労働政策委員長の松井副会長から「2012春闘は、震災、欧州危機、タイ洪水や円高の影響があり昨年以上に厳しい状況下であるが、それぞれの組合が、1997年をピークに低下している賃金(大手企業7.2%減少、中小企業9.5%減少)に歯止めをかけ、すべての労働者の生活を維持・向上させるために1%を目安に賃金を含め適正な配分を求め、労働条件の復元・格差是正に向けて交渉を進めてほしい。また、この期間に春闘のみならず、さまざまな労働条件を含め会社と十分に論議してほしい」とのあいさつがされた。

セミナーは、はじめに講義①では、2012連合白書のポイントを中心に説明が行われ、続いて講義②では、連合埼玉2012春闘方針の考え方や具体的な活動内容等について説明した。講義③では、昨年度に実施した「賃金実態調査」から、県内の中堅・中小企業の実態賃金よりミニマム賃金の設定を行い世論喚起していく必要性を解説した。講義④では、埼玉県内の経済情勢を中小企業の経営者から見た指標を使い「景況感DIは、前年比では概ね改善している」状況であるなど、県内経済情勢についての報告、また、参加者より事前に質問のあった、一時金要求の考え方や算出方法、中途採用者の賃金改善の考え方などについて意見交換を行った。



セミナーの様子

講義⑤としては、春闘に向けた会社の数字の見方について外部講師を招いて「労働組合の財務分析～労使交渉のテーブルに着く前に～」をテーマとして、実際の貸借対照表や損益計算書を使用して付加価値額を算出することにより、生産性指標、安全性分析、収益性分析、経営効率性分析などができるように学習を行ない、その後、交渉のテクニックについて講義を行いパワーアップセミナーを終了した。アンケートでは、「財務分析が大変役に立った」、「時間が足りなく感じたので、財務分析のみを単独開催してもいいのでは」、「連合白書の説明をもう少しとってほしい」など意見があった。

論より証拠・経験に価値あり

～連合埼玉災害ボランティア救援隊 第18回研修会「雪かたし」～

1月28日(土)～29日(日)の1泊2日にて、福島県大沼郡金山町で「雪かたし」のボランティア研修を行いました。金山町は、全国の中でも高齢化率が高く、高齢で一人暮らしの方が多くいます。また、豪雪地帯でもあることから、雪かたしの研修を毎年、金山町で実施しています。地域の方に教わりながら、28日は4軒、29日は3軒の作業を行いました。



想像を超える積雪の中で、「雪かたし」は、働き盛りの男子が複数で寄ってたかっても、満足のいく程の成果が得られず、感情と肉体的にも想像を超えており、悔れなく感じました。

一方、受け入れて頂いた地域の皆さんとの交流を通じ、心のゆとりや豊かさを感じました。

この研修の目的は、実際の自然災害時に適切な対応に向けた訓練ではありますが、ある意味では、参加を通じて自己研鑽に貢献でき、また、個々人の多様性に対する組合活動の領域拡大を創造できるものと思います。

ご参加いただいた多くの隊員と金山町の皆さんに改めて感謝いたしますとともに、今後も本活動を継続していきます。より多くの仲間参加をお待ちしています。

連合埼玉災害ボランティア救援隊・隊長 依田 修(連合埼玉副会長)

以前、震災ボランティアで経験していたので、予想していたとおりの力仕事でしたが、さわやかなボランティア活動ができました。

雪かたしの作業自体はきつかったのですが、担当した家の住人の方や金山町の西谷地区・大塩地区のみなさんから「来てくれてありがとう」と気持ちのこもった言葉やおもてなしを受け、来て良かったと思える活動となりました。

また、連合ボランティアとして、他の産別からの参加者や雪かたしのベテランの方々からの話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

ボッシュ労働組合 播磨 隆之



力仕事は自信があり、やる気マンマンで当地へ向かいました。ただ、実際に作業するお宅に着いてみると、入口付近は除雪されているものの、家の周辺は屋根からの落雪で、一階は見えない程になっているではありませんか？

この景観に圧倒され内心本当に出来るのか不安になりましたが、これを85歳になるおばあさんが一人で作業しているとの話を聞いて、「やる気モード」にスイッチが入ったのは、言うまでもありません。

しかし、雪かたしは重労働と聞いてはいたものの、開始直後から気合を入れ過ぎたため、すぐにへばってしまいました。やはり、諸先輩方の教えは、ちゃんと聞かないといけないと反省をしました。

作業終了後、おばあさんからねぎらいの言葉も頂き、返って恐縮する気持ちを抱えながらの活動でした。来年も是非参加して、いろいろお手伝い出来ればと思います。

東光電気労働組合 小沼 則夫



雪で家屋の1階が埋まっているのを目の当たりにした時、唾然とするばかりでした。あたり一面が雪のため、排水溝の場所や貯水池が見えない場所に目印をつけて立ち入りしないようにするなど、回りの安全に配慮し、怪我なく除雪作業に取り組むことができたのも、地元の皆様の助言と参加者の皆様のおかげと感じています。

全員で協力し、雪の除去と搬出を必死に行い、金山町の皆様のお役に立てた経験を、自分自身の次の活動につなげていきたいと思えます。

報道では記録的な降雪量と言われており、まだまだ大変な状況が続くと思いますが、一日も早く天候がよくなることと今後もより多くの皆様が研修に参加し、何かをつかめるような活動になることを願っています。

八千代工業労働組合 宮崎 健太



2012年度第1回地協議長・事務局長会議開催

本会議は、2月2日(木)にさいたま市・ときわ会館において、新任役員研修も兼ね地協議長・事務局長会議を開催した。

小林会長からは、「去年はたくさんの出来事があったが、地域の被災者への対応などに取り組んでいただき本当に感謝している。また、各種選挙活動でも地域の力を発揮し、汗を流し取り組んでいただいたき、改めて感謝申し上げる。会長に就任以降、人材育成を進めたいと考えており、連合埼玉として体系的な教育プログラムを作成している。各構成組織のみならず各加盟組合の執行委員・職場委員の皆様、更には地域協議会枠でも参加していただきたいと思っている。

政策制度要請では、既に要請を行っている所もあるが、できるだけ早めに要請を行ってほしい。首長懇談会等を通じ、各市長・町長と意見交換しながら、連合の運動を理解していただくと思っている」等のあいさつがされた。

議事では、年間の主要活動をはじめ2012春闘方針と具体的行動、第83回メーデーの取り組みなどについて意思統一を行った。

その後、小林会長を講師に実施した基調講演では「地域に根差した顔の見える運動」をテーマに会長自身が経験した組合活動を踏まえ、如何に地域に顔の見える地協活動ができるかについて具体的な例をあげて熱心に話をされ盛会裡に終了した。



小林会長



地協議長・事務局長会議の様子

「地域に愛される事務所を目指すライフサポートステーション」

“ネット21熊谷”オープン

2月10日、久喜市・川越市に続き県内3カ所目になる北部地域を拠点としたライフサポートステーション「ネット21熊谷」をオープンした。

当日は、富岡清熊谷市長をはじめ、推薦議員、労働福祉団体、北部ブロック地域協議会役員など41名が参加しオープニングレセプションを開催した。

主催者を代表して連合埼玉小林直哉会長は、「地域に根差した顔の見える運動の拠点として、地域に愛される場所としたい」との思いを込めて挨拶がされた。この事務所は、勤労者と地域市民がお互いに支え合い「働くことを軸とする安心社会」の実現のため、①地域協議会活動サポート機能、②ライフサポートセンター機能、③営利を目的としない各種事業の情報発信機能の3つの機能を備えて活動していく。

【事務所の体制】

名称	ライフサポートステーション「ネット21熊谷」		
事務所専従者	事務長：清水清春(しみずきよはる)		
開所日	月・火・水・金 9:30~18:00		
所在・連絡先	〒360-0037 熊谷市筑波1-146 つくばねビル1F TEL:048-598-6321 FAX:048-598-6821		



小林直哉会長



富岡清 熊谷市長

熊谷・深谷・寄居地域協議会
宮前剛志議長ネット21熊谷
清水清春事務長

ネット21熊谷の外観



オープンレセプションの様子



事務所内



いろいろな節電アイデアいただきました



ー ピークカットアクション21 冬の陣 冬の節電アイデア 募集結果 ー

「ピークカットアクション21 ~冬の陣~」節電アイデアを募集し、皆様から50を超えるアイデア提案を頂きました。その集約結果については、コメントとともに連合埼玉ホームページにて、掲載しています。

ここでも、ほんの一部ではありますが、ご紹介します。

春が芽吹く季節になってきましたが、朝晩はまだまだ冷え込む日が多いです。ご提案頂いたアイデアを参考にお試しされてみては、いかがでしょうか？

また、アイデアのご提案いただきました皆様、ご協力、ありがとうございました！

一家団欒・ひとつになって節電!

- ・コタツに一家が集まって、多くの暖房を使わない。
- ・週に一度夕飯は、暖房なしで家族団らん鍋パーティーをして暖まる。
- ・夕食はなるべく家族と一緒にとり(料理の再加熱不要)、夕食後も家族が一つの部屋で過ごす。
- ・子ども(幼児です)と添い寝し、湯たんぽ代わりにする。
- ・18時ダヨ全員リビング集合!

料理の工夫で節電!

- ・根菜・香辛料・生姜などを使った料理で体を暖める。
- ・ビールを熱燗に代える。

体を動かして節電!

- ・需要ピーク時間帯に、筋力トレーニングを実施することで、暖房を使用せずとも体が暖まる。

時間調整・ライフスタイルの見直しで節電!

- ・お風呂に入る時間を集中させることで、お湯を効率的に使用する。
- ・一時間早寝をして、睡眠時間は電気毛布等の電気製品は使用せず、湯たんぽの使用にて節電を実施する。
- ・風呂の給湯・保温を電気で行っている家庭では、「朝風呂」がピークカットに貢献。
- ・バスタオル等で包んだ湯タンポをコタツの中央に入れると、ほのかに暖かく気持ちが良い。
- ・お風呂の残り湯を湯たんぽに入れて使用。
- ・腹巻をする、無理のない厚着をして保温する。
- ・ソックスカバーを履き、足を温めることや、セーターなどを厚着する。
- ・靴下・着ぐるみで心も体も、ぽっかぽか。
- ・スリッパ足もとぬくぬく大作戦。
- ・電気カーペットは全面暖房ではなく、人の居る場所だけ暖まるように暖房範囲を上手に切り替える。
- ・冬用ラグの下に保温シート(銀色の市販品)をしき、電気カーペットを使わない。

お部屋の環境の工夫で節電!

- ・熱の発散が多い窓ガラスの下部分にビニールプチプチを貼りつける。
- ・カーテンの開閉で、日中は日差しを取り入れ、夜は冷気が入らない様にする。
- ・コタツはファンヒーターの温風を送り込み(1か所開ける)暖をとる。
- ・市販のサーキュレータを活用し部屋全体の気流を循環させ、エアコンの設定温度を下げる。
- ・加湿も保温効果があるので、観葉植物を置く。
- ・洗濯物を室内に干し、加湿代わりに使用することによって、加湿器の電力が不要となる。

その他、いろいろな工夫で節電!

- ・外食などをして、夕方家にいないようにする。家では1か所に集まる。
- ・電球のLED化。
- ・キャンドルナイトの開催(実施)(照明を消してキャンドルの明かりだけで夕飯を食べる)

詳しい内容は、連合埼玉ホームページをご確認ください。とっても面白いアイデアが盛りだくさんですよ!





3.8 国際女性デーとは？



1857年3月8日、ニューヨークの被服工場や繊維工場で働いていた女性たちが、劣悪な労働条件と低賃金に抗議を行った事が起源と言われています。また、1908年3月8日には、15,000人の女性労働者たちが労働時間短縮、賃上げ、選挙権、児童労働の廃止を訴えて、「パンとバラ」のスローガンを掲げ、ニューヨーク市内をデモ行進しました。パン(主食:アジアは米)

この日を記念し、3月8日は「国際女性デー」として、女性たちが平等と尊厳を求める行動の日となり、世界各国で様々な行動が展開されています。



「1+1=女性の力」

「1+1=女性の力」とは、ICFTU-APRO(国際自由労連アジア太平洋地域組織)の労働組合への女性参画スローガンで、一人の女性がもう一人の女性を労働組合活動へ勧誘、さらに一人の女性執行委員を育てて女性の意見を労働組合に反映させ、要求を実現していこうという意味。

☺ 連合本部での取り組み

- 街宣行動 2012年3月8日(木) 17:00～有楽町イトシア前
- 中央集会 2012年3月8日(木) 18:30～よみうりホール

☺ 連合埼玉での取り組み

- 春闘第2次行動及び3.8国際女性デー街宣行動
日時 2012年3月7日(水) 18:00～19:00
場所 大宮駅東口
内容 アピールの読上・バラの花の配布

= も う す ぐ 選 挙 =

坂戸市議会 議員選挙

◆手塚 重美(てづか しげみ) 64才(民主党・元)

◆武井 誠(たけい まこと) 56才(社民党・現1・連合埼玉推薦2回目)埼玉教組・組織内

告示日:2012年4月8日(日) 投票日:2012年4月15日(日)

現在予定される3月の日程表です

3月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	木	第2回地方労働審議会(13:30～・ホテルプリランテ武蔵野)
2日	金	連合関東ブロック「政策担当者会議」(13:30～・高崎)
3日	土	さいたま市民活動サポートセンターフェスティバル(～4日10:00～16:00・浦和東口コムナール9F)
4日	日	
5日	月	雇用支援機構運営協議会(10:00～12:00)
6日	火	①第4回四役・執行委員会(10:00～・ときわ会館) ②メーデー実行委員会(15:30～・ときわ会館) 春季生活闘争政策制度実現中央集会(18:30～・日比谷公会堂)
7日	水	ミニマム賃金アピール(18:00～・大宮駅東口駅頭) 埼玉労福協企画委員会(10:00～・ときわ会館)
8日	木	国際女性デー中央集会(16:00～・よみうりホール)
9日	金	連合米軍基地等のある地方連合会会議(15:00～・山口)
10日	土	
11日	日	
12日	月	
13日	火	
14日	水	
15日	木	
16日	金	
17日	土	
18日	日	
19日	月	
20日	火	
21日	水	ときわ会館企画委員会(10:00～・ときわ会館)
22日	木	青年委員会「第3回幹事会」(16:30～・連合埼玉会議室) 連合「地方連合会事務局長会議」(14:30～・ホテルメトロポリタン盛岡)
23日	金	
24日	土	
25日	日	民主党埼玉県連「第14回定期大会」(13:00～・プリランテ武蔵野)
26日	月	ときわ会館理事会(10:00～・ときわ会館)
27日	火	第2回男女平等参画推進委員会(16:00～・連合埼玉会議室)
28日	水	埼玉労福協理事会(10:00～・ときわ会館)
29日	木	①連合関東ブロック「第2回幹事会」(10:30～・ラングウッド) ②連合関東ブロック「地方連合会代表者会議」(13:00～・ラングウッド) ③連合関東ブロック「中央ろうきん協力会議」(15:00～・ラングウッド)
30日	金	
31日	土	

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

◇2012春季生活闘争の取り組み課題

連合は2012春季生活闘争「闘争開始宣言2.10中央集会」を2月10日に開催した。連合埼玉も2月14日に春闘第一次行動「闘争開始宣言」を大宮駅東口駅頭で開催し、2012春闘をスタートさせた。

私たちを取り巻く環境は、東日本大震災からの復興・再生、世界経済の不確実性や不透明感、日本経済のデフレの進行、歴史的な超円高と産業空洞化の懸念など、課題が山積している。

賃金は10年前の水準から7.1%も低下し、非正規労働者の増加や若年層の雇用不安も深刻化している。年収200万円以下の層は1,100万人を超え、生活保護受給者は206万人と過去最多となっており、貧困・格差の問題が社会的に許容できる範囲を既に超えている。勤労者は、雇用不安、賃金不安、将来不安により脅かされつつあり、それが消費の低迷へと連鎖し、需要不足からさらに日本経済が低迷するという悪循環を繰り返している。

このような中で、2012春季生活闘争は2つの重点を置くべき課題として、「配分の是正による賃金水準の復元、格差是正、底上げ・底支え」と「『人財』を軸とした産業力・企業力の強化による持続的な成長の実現」を掲げ、加えて、運動の両輪としての制度・政策実現に向けて取り組むこととしている。

さらに、2012春季生活闘争は、東日本大震災によって被災した地域の復興・再生を成し遂げると同時に、震災前からの課題であった日本社会の構造的問題をも解消し、日本経済全体を早期に持続的・安定的成長に回帰させるための闘いでもある。

◇労働条件の復元と格差是正

連合はこうした目標に向け、2012春季生活闘争を「すべての労働者の処遇改善」に向けた3年目の闘いと位置づけ、すべての組合がおかれた状況の下で、すべての労働者のために1%を目安に適正な配分を追求し、労働条件の復元・格差是正に向けた取り組みを推し進め、分厚い中間層を取り戻し、消費の拡大、内需拡大へつなげ、持続可能な成長とデフレからの脱却を実現しなければならない。

現在のデフレは、賃金低下が価格に連鎖する新しいかたちのデフレであるにもかかわらず、経営側はこのデフレの本

質を理解せず、人件費抑制の姿勢を崩そうとしない。このまま賃金が低下し続ければ、日本経済は低成長とデフレの悪循環から抜け出せず、日本は崩壊の道を歩むことになる。

今、経営側に必要なのは、ミクロの企業論理に傾いた経営姿勢を転換し、雇用や賃金を安定させ、経営責任として働く者の不安を払拭することであり、働く者の生活を守るためには、これ以上の賃金水準の低下は阻止しなければならない。相変わらずの「総額人件費抑制」の姿勢を崩さず、労使関係の基本を根底からゆるがしかなない「定期昇給」の見直しを主張することは論外である。

◇産業・企業を支える人財力・現場力

「失われた20年」で、企業は国際競争力強化による生き残りを根拠に、総額人件費抑制の姿勢を前面に押し出し、固定費の変動費化など、労働コストの削減に偏った施策を追求してきた。教育・訓練にかかわる費用も抑制し、採用の抑制や非正規雇用への置き換えなどを行い、「人財」が企業にもたらす価値は軽視されてきた。

このことが、先輩から綿々と伝承されてきた企業独自の技術・技能やノウハウの喪失につながり、産業力・企業力の潜在的な弱体化を招いた。あらためて日本の強みである高い技術・技能や現場の総合力の復元をはかるべく、そのベースとなる「人財力」を高めなければならない。

「競争力の源泉は人である」という経営理念を掲げる企業は多いが、現実面では逆のことが行われてはいないか。産業・企業を支える人財力・現場力を高めることこそが、直面する幾多の困難を乗り越え、産業・企業の生き残りや健全成長への道を切りひらく唯一の道である。

これまで我が国の労使関係は「対立と協力」の調和によって安定した関係を築いてきた。それは生産性の向上で協力し、成果配分で対立するというものであり、そのことが戦後の高度成長を支える原動力となってきた。経済がグローバル化してもこの基本は少しも変わるものではない。今後、日本の経済・社会が成熟していく中で、良好な労使関係という日本の良さを維持しながらも主張すべきはきちんと主張する、重大な決意をもってやるときはやるといった労働組合本来のあり方が求められている。

「復興・再生に全力、『働くことを軸とする安心社会』を実現しよう」をスローガンに、職場・地域から闘いを巻き起こし、未組織、パート労働者を含むすべての働く仲間たちに闘いの輪を広げ、労働者一人ひとりの怒りを要求へ、そして行動へと結集しよう。

2012.2.22